

Yusuhara a Home from Home (第11部)

2つのオリンピック聖火リレー (The Two Olympic Torches)

梶原学園 ALT : スティーヴン・ウダード

2021年4月19日は、東京オリンピックの聖火リレーが、ここ梶原にもやってきた記念すべき1日となりました。リレーはささやかな距離ではありましたが、それでも一番梶原らしさを感じられるような経路をとり、維新の門をゴールとして行程を終えました。聖火ランナーは梶原学園のOBにあたる高校生たちが担い、ゴール地点では、梶原学園の在校生代表をはじめとして、多くの町民のみなさん、生徒、実況を中継する放送局の方たちからの出迎えを受けました。



今回の聖火リレーです。梶原学園OBの高校生たちが、聖火ランナーを担当しました。

ところで、僕が聖火リレーを間近に見るのは、これが実は2度目です。というのも2012年のロンドンオリンピックで、故郷の町(サウスエンド・オン・シー)を通過した時にも沿道にいたからです。その時、僕は今回の聖火ランナーの高校生たちより、ほんの少しだけ、2、3歳ほど年上でした。たった10年足らずの期間に、聖火リレーを2度も目のあたりにできるなんて、思いもよらないことです。せっかくの機会ですから、今回、写真を2枚、見比べてみることにしましょう！

規模は違うものの、2つのイベントのどちらを見ても、素晴らしいの一言につきます。サウスエンド・



2012年、僕の故郷サウスエンド・オン・シーでの聖火リレーの様子です。

オン・シーでは式典の背後には浜辺と海が(写真の上の方に、少しだけ海がのぞいています)、梶原では緑豊かな山が聖火ランナーたちの背景になっていますが、どちらの風景も、聖火リレーに華々しさと荘厳な雰囲気を与えてくれているように思えます。競技大会としてのオリンピックがこれから先、どのように続けられていくのかについては、はっきりしたことは言えません。でも、写真からもわかるように、オリンピックに関わる人々の思いというものが、今この瞬間にも存在していることは間違いのないと思います。

(日本語訳 : 町 ALT 森竹弘喜)